トークイベント

拡張させない現実感技術

ー歴史のデジタルパフォーマンスー

お茶の水女子大学

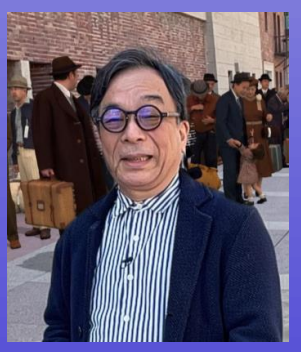
共催：「伝統芸能×未来」プロジェクト
コンピテンシー育成開発研究所比較日本学教育研究部門

2022

7.23［SAT］ 15:00-17:00

国際交流留学生プラザ　多目的ホール

対象：お茶の水女子大学学生・附属校生徒・教職員
使用言語：日本語



講師：藤幡正樹
（メディアアーティスト）

モデレーター：
マイケル・エメリック
（UCLA教授、早稲田大学教授）

申込締切

2022年7月22日
（金）12:00

以下QRコードよりお申し込みください。

協力：柳井イニシアティブ

問合せ：dentogeino@cc.ocha.ac.jp
「伝統芸能×未来」プロジェクト（JPAF）
担当：埋忠美沙（コンピテンシー育成開発研究所准教授）

ご参加にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力のほどよろしくお願いいたします。

拡張させない現実感技術
ー歴史のデジタルパフォーマンス

講師プロフィール

藤幡正樹（メディア・アーティスト）

日本のメディア・アートのパイオニア。80年代はコンピュータ・グラフィックス、90年代はインタラクティブアートやネットワークをテーマにした作品を制作。その後、GPSを使ったフィールドワークシリーズを展開。現在は、ARを扱ったBeHereを継続中。1996年、アルス・エレクトロニカ（リンツ、オーストリア）で日本人初のゴールデン・ニカ賞を受賞、2010年文化庁「芸術選奨」文部科学大臣賞、1989年から慶應義塾大学環境情報学部、1999年東京藝術大学、2005年大学院映像研究科の設立に参加。東京藝術大学名誉教授。2017年はオーストリアのリンツ美術大学、2018年は香港バプティスト大学、2020年はUCLAの客員教授。

マイケル・エメリック
（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授、早稲田大学教授）

日本文学研究者、翻訳家。1975年ニューヨーク生まれ。コロンビア大学で博士号を取得。『源氏物語』『伊勢物語』などの古典から現代文学まで幅広く研究。また、柳井イニシアティブ（UCLA、早稲田大学）のディレクターとして、グローバルな日本文化研究に取り組んでいる。
主な著書は『The Tale of Genji: Translation, Canonization, World Literature』、『てんてこまい―文学は日暮れて道遠し』。翻訳作品は、高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』、松浦理英子『親指Pの修行時代』、川上弘美『真鶴』（2010年度日米友好基金日本文学翻訳賞受賞）、古川日出男『ベルカ、吠えないのか？』他多数。

趣旨

日本のメディア・アートのパイオニアである藤幡正樹氏と、グローバルな日本文化研究に取り組んでいるマイケル・エメリック氏をゲストに迎え、ゲームをはじめ、昨今生活の様々な場面で取り入れられているAR（拡張現実）をテーマにしたトークイベントを開催します。

両氏が手がけた全米日系人博物館（ロサンゼルス）で現在開催中の「BeHere/1942」などを例に、歴史展示の取り組みやARの可能性についてお話いただきます。